

キ^Cャ^Hラ^A・エ^Rミ^Aユ^U

W★B 004



GUNDAM 003 08-83-CCA

CHARACTER EMULATION

シーマ・ガラハウ

体が動かない…目を覚ましたシーマはまだはっきりとしない意識の中、自分が拘束され体の自由が効かない事に気付く。「こ…これは…」

「ようやくのお目覚めのようですね？シーマ様」

シーマの見知った顔、それは連邦とのパイプ役を勤めていた男の顔。

「デラーズの排除ご苦労様です。次は私が約束を守る番ですね」



誰が
そんな馬鹿
げた事ツ！

連邦の軍籍が裏切りに対するシーマへの報酬のほずだったが、シーマの前歴を問題視し、連邦軍はその約束を反故にした。しかし、軍側は再度の考慮を条件に莫大な賄賂を要求する。

ふざけんじや
ないよつ！

男は賄賂の肩代わりをする代わりにシーマにゲームを持ちかける。一つ、24時間以内、100人の男を一つ、24時間、気を失わない事、一つ、ゲームに負けた場合は男の命令を一つ聞く事。

「ゲームを受ける、受けたいはシーマ様の自由ですが、今のあなたに受ける以外の選択肢があるとは思えません？」

「あなたの部下の命の保障もゲームのチップなのですよ、さあ、お答えを」



いいだろう
その条件
飲んでやるよ

さっさと
はじめなっ！

このシーマを
謀ったんだ
後で高くつくよ！

「では、一番手は私から」
「この艶に張り、とても30代半ばとは思えませんよ」



《 開始 0:10 残99人 》

ゴチャゴチャ
言っでないで
早くおしっ！

はあっ、
あああああ！



「1人平均14分とは、なかなかのペースですね」
「最後までこのペースが持てば23時間でクリアできますよ」



「ここまでで29人、平均タイムが縮んでいますね」
「次からはアナルを使ってみなさい」

「ん？アナルに変えてもペーセスが落ちませんね…」
「では手は変えてみましょうか、一度降ろしなさい」



「ペーセスが極端に落ちていきますよ、シーマ様」
「仕方が無いですね、次から2人でかかりなさい」





「ふむ、2人がかりでもタイムが伸びない…」
「さすがに、もう締めも無くなってきたようですね」



「シーマ様?」「シーマ様?」
「どうやら」「」までのようですね」
「21時間で81人とはお見事ですが、ゲームオーバーです」



「罰ゲームです。明日から私専任の肉奴隷になって頂きます」
 「手取り足取り、これから色々教えてあげますよ」



「うまく出来たら、こ褒美に子宮まで突き上げてあげますよ」
 「ほら、もっと強く吸って下さい。シーマ様」

ニナ・パープルトン

「やめてっ！いやあああっ！」
暗がりの格納庫にニナの悲鳴が響く。
「人をゴミみたいな目で見やがって、女のくせに生意気なんだよ！」
エンジニアとしての彼女の過度なクレームと人を見下した態度は、彼ら機体整備員達のプライドを酷く傷つけ続けた。そして…
「ここでのアンタの立場を教えてやるよ！時間をかけてなっ！」



「今日から俺達が色々教えてやるよ」
「いい顔で泣くじゃねえか、いつものヒステリーとは
大違いだ」



「男日照りで欲求不満なんだろう？俺達が満足させてやるよ」
「まだ状況が理解できていないみたいだな」



「じゃあ、俺が一番にやらせて貰うぜ！」
「前からあんたみたいなのがエリートのお嬢様を犯って
みたかったんだ！」



「ちっ、初物じゃねーのかよ...」
「しかし、この締めりじゃあ使い込んでいないようだな」



「いつもの毅然とした態度もこうなっちゃ台無しだな」
「馬鹿言え、」のギャップが良いんじゃないかねえか、ハハッ」

「一発で妊娠するくらい濃いのを流し込んでやるぜ！」
「ううっ、イクッー！」



「後がいるんだから最初から膣内に出すんじゃないよ」
「ハハッ、これだけの締めだ、無理言うなよ」





その後、彼らは代わる々私を犯し続けました...

おぶっ...

んぶっ!

んぶっ

んぶっ

んぶっ

「ほら、もっとうまく舌を使え!」
「いきなり尻で感じるとは大した淫乱具合だなっ」



んぶっ!
んぶっ!
んぶっ!

んぶっ!

おぶっ!

うぐっ!

「ほらっ、一滴残らず飲み干すんだ」
「これから毎日飲む事になるんだ、しっかり味わいな!」

「犯されて何度も絶頂くとは、よっぽど溜まって
たんだろっな」
「いつものヒステリーも欲求不満からかよ！」



「誰かにしゃべったら後悔する事になるぜ…解るな？」
「これから毎晩よろしく頼むぜ」



クェス・パラヤ

「へ～、親と喧嘩して家出中なんだ。良かったらウチに遊びに来ない？」

気安く話しかけてきた男に最初は警戒したクェスも、男の巧みな話術と優しい笑顔に徐々に心を開いていく。

「近くだからさ、今からウチにおいでよ」

男は背を向けて歩き始め、クェスもすぐ後ろをついて歩き出す。男の口元に浮かぶ歪んだ笑み、隠された欲望をクェスは知る由もなかった。



「良いとこのお嬢様とは言え、もっと世間ってヤツを知った方がいいなあ」
「初めては痛いかも知れないけど、すぐキモチよくなるよ」

「13歳なら子供も生める歳なんだから大丈夫だって」
「くっ、キツっ…くっ、ほら、入ったあー」



きやあ
あああ——!

痛っ…
…ぎっ…!

ぎっ

グイッ

「これでクエスも大人の仲間入りだよ」



キヤア!

やああ…

い…
嫌あ…

くっ
あ

「そろそろイクぞ…」
「この歳なら膣内で射精される意味が解るな」



「うっ…うっ…うっ…」



「お前が汚したんだ、自分でキレイにしろ」
「もっと舌先を使って…いいぞ…そう、その調子だ」



「うっ…おおお…」
「ほら、こぼすな、全部飲み干すんだよ！」



「次は自分で動いて御奉仕するんだ」
「もっとしっっかり動かないと気持ち良くなならない
だろっっ！」



「泣いても誰も助けになんかこないよ」
「痛い目には遭いたくないだろう? だったら
ペットのようになんか俺の言う事を聞いている!」



「そうだ、これからは俺がお前の御主人様だ」
「出来の悪いベットには御仕置が待っているからな」



「最近忙しくて、構ってやれなかったからな」
「今日は一日よがらしてやるよ」



キキ・ロジータ

その日、キキはジャングルにいつもとは違う雰囲気を感じる。
「誰かいるの？」
周りを警戒して声を上げるが反応は返ってこない。
(気のせい?)しばらくの沈黙の後、キキは日課の水浴びを始める。
キキが何度目かの潜水から上がった時、泉は銃を構えた兵士達に取り囲まれていた。
「間抜けなゲリラもいたものだ、よ～し動くなよ」



「早く着ちまいな、なんなら裸で引っ張っていいこうか？」
「いい眺めだ、どうだい尋問前に俺と楽しまないか？」



何
するんだよ!

放せ!
放せえ!

「尋問に協力できないなら、こっちで役に立って
もらおうか」
「このやろう暴れんじゃねーよ」



止めろお!

汚い手で
アタシに
触れるなあ!

「ジャングルじゃあ、こっちの相手にも困るだろう」
「いい機会だ、女の悦びってヤツを教えてやるよ」



「舌を噛み切らないようにこれでも噛ませておけ!」
 「これだけ濡れていれば十分だな、じゃあいくぞ!」



「この歳で処女だとよ、さすがにこれじゃあ
 キツイせ…」
 「かあ、処女なら先を譲るんじゃないか」



「瞳で...、おめ...だ、出すぞ...、出るっ...、おめおめおめっ」
 「ほら、顔で受け止めるんだ」



「後がつかえていゝるんだ、休んでいゝる暇はないぞ」
 「ほら、大人しく黙ってやらせてろ!」

「おっ俺もう限界……うっ……」お前出すの早いよ
「臆にたっぶり出してやったぜ」



「しかし、歳の割には発育が悪いんじゃないか？」
「こんな所でゲリラなんかやってんだ、満足な物も
食べねえんだろう」



「意地を張らず、早く楽しめるようになるんだな」
「女なんて、ほっといても病み付きになってくるって」



「そろそろ、このガキにも飽きてきたな」
「じゃあ、ゲリラのオトリにでも使うか」



CHARA EMU



むうむああーっ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

1日

だきまくま & 人外魔境倶楽部